

よくある質問

平成27年10月1日現在
航空局安全部空港安全・保安対策課航空保安対策室
運航安全課

皆様から問い合わせの多かった例を「よくある質問」としてまとめました。
これら以外にも、Q & Aにまとめてありますのでご確認下さい。

- Q1 容器には120mlと書いてありますが、中身はどう見ても半分以下です。この容器のままプラスチック袋にいれば客室内への持ち込みは可能ですか？
- Q2 内容量90gとあります。別な容器に詰め替えなければ持ち込めませんか？
- Q3 100ml以下の容器ですが、透明でなければなりませんか？必ず詰め替えないとダメですか？
- Q4 100mlずつ入っている個々の容器が10個の場合、全部足して1L以下なので、ジッパーの付いたプラスチック袋にいれば機内へ持ち込めますか？
- Q5 少しピンク色がかった1Lのプラスチック袋があるのですが、使用できますか？また、ジッパーではなく、ファスナーの付いたプラスチック袋でも使用できますか？
- Q6 1Lの袋を市販品で探したのですが見つかりません。タテ20.7cm×ヨコ18.3cmの大きさのジッパー付きプラスチック袋は使用できますか？
- Q7 保冷剤は客室内に持ち込めますか？ドライアイスはダメですか？
- Q8 お酒を持って行きたいのですが。
- Q9 コンタクトレンズの保存液や洗浄液もプラスチック袋に入れなければ持ち込みができませんか？
- Q10 国内線でも液体物の制限がありますか？

Q 1 容器には120mlと書いてありますが、中身はどう見ても半分以下です。この容器のままプラスチック袋にいれれば客室内への持ち込みは可能ですか？

A 1 個々の容器が100ml以下でなければ中に入っているものがごく少量であっても持ち込みができません。100ml以下の容器に詰め替えたり、スーツケース等に入れカウンターで預けることを検討してください。

Q 2 内容量90gとあります。別な容器に詰め替えなければ持ち込めませんか？

A 2 密度の違いはありますが、1g=1mlと読み替えることとしています。したがって容器等に内容量90gとあれば90mlと読み替えができますので、1L以下のプラスチック袋にいれれば客室内への持ち込みができます。

Q 3 100ml以下の容器ですが、透明でなければなりませんか？必ず詰め替えないとダメですか？

A 3 1Lの袋は無色透明なものとしていますが、個々の容器は透明でなくともかまいません。容器の容量が100ml以下であれば、そのまま1L以下のプラスチック袋に入れて下さい。

Q 4 100mlずつ入っている個々の容器が10個の場合、全部足して1L以下なので、ジッパーの付いたプラスチック袋にいれさえすれば機内へ持ち込めますか？

A 4 いいえ、持ち込めません。個々の液体の量を足して1L以下なら良いというわけではありません。プラスチック袋の大きさ（内容量）が1L以下であることが条件となります。

なお、個々の容器をプラスチック袋に詰める際には、余裕をもって入れていただきますようお願いいたします。袋のジッパーがきちんと閉じられない場合は、一部を放棄していただく場合があります。

Q 5 少しピンク色があったプラスチック袋があるのですが、使用できますか？また、ジッパーではなく、ファスナーの付いたプラスチック袋でも使用できますか？

A 5 1L以下のプラスチック袋については、無色透明としていますので、保安検査場でのトラブルを回避するため、無色透明のプラスチック袋をご使用いただきますよう、御協力をお願いします。また、ジッパーではなく、ファスナーの付いたプラスチック袋でも使用できます。

Q 6 1Lの袋を市販品で探したのですが見つかりません。タテ20.7cm×ヨコ18.3cmの大きさのジッパー付きプラスチック袋は使用できますか？

A 6 使用できます。形は、正方形でも長方形でもかまいませんが、タテとヨコのサイズが足して40cm以内のものを使用してください。

Q 7 保冷剤は客室内に持ち込めますか？ドライアイスはダメですか？

A 7 保冷剤（凍っている状態でも、ゼリー状であっても）は、100ml（100g）

以下の個々の容器であれば、1 L以下のプラスチック袋にいれば客室内への持ち込みができます。

なお、医療用に使用するもの（熱冷まし用ゼリータイプシートや氷枕等）や、携帯の際冷やす必要がある薬（インシュリン・ホルモン剤など）のための保冷剤については、これらのお薬と一緒に「医薬品」として検査員に申し出ることにより、（処方箋の写しや薬の説明書き、診断書、薬を使用される方の氏名などを確認させて頂く場合があります。）持ち込みが可能です。

ドライアイスは液体物の制限対象外です。客室内に持ち込みが可能です。容器が密閉されていない状態でドライアイスの重量が2.5kgを越えないようにしてください。2.5kgを超える場合は、機内への持ち込みも、カウンターでお預けいただくこともできません（別記注参照）。

Q8 お酒を持って行きたいのですが。

A8 100ml以下の個々の容器であれば、1 L以下のプラスチック袋にいれば客室内への持ち込みができます。ですが、現実問題としてあまりそのような容器は見当たらないと思いますので、スーツケース等に入れカウンターで預けることを検討してください。

なお、カウンターでお預けいただく場合でも、アルコール度数が70%（70度）を超えていたり、お酒の総量が5リットルを超える場合は、機内への持ち込みも、カウンターでお預けいただくこともできません（別記注参照）。また、一部ワレモノ等でお預けいただけない場合がありますので、利用される航空会社に事前にお尋ね下さい。

Q9 コンタクトレンズの保存液や洗浄液もプラスチック袋に入れなければ持ち込みができませんか？

A9 コンタクトレンズの保存液や洗浄液は、「医薬品」として扱われますので、検査員に申し出ていただくことにより、機内で必要な量に限り持ち込みが可能です。1 L以下のプラスチック袋に入れる必要はありませんが、「医薬品」として検査員に申し出ていただく必要があります。

Q10 国内線でも液体物の制限がありますか？

A10 国内線では、今回の液体物の制限は行われません。なお、液体物検査装置による検査など、通常の保安検査は実施されますのでご協力いただきますようお願いいたします。

これら以外にもQ&Aにまとめてありますのでご確認下さい。

別記注

ドライアイス、アルコール性飲料、喫煙用ライターは航空法86条の『爆発物等の輸送禁止物件』に該当しますが、『航空機による爆発物等の輸送基準等を定める告示別表第18』によって、輸送禁止の解除物件に指定されています。

これに基づき、「機内持込・お預け手荷物における危険物の代表例」を作成しておりますので、詳しくは以下をご覧ください。

http://www.mlit.go.jp/koku/15_bf_000004.html